

もう一度、サーフィンがしたい
そのひと言から始まったプロジェクト

認知症とともに生きる



第21回東海北陸作業療法学会

公開講座 みんなでチャレンジ!
夢と友情をつなげるサーフィンプロジェクト



2022 **11.13** 日 10時00分
~11時30分

オンライン開催
事前申し込み不要

講師 / 下菌 誠氏

若年性認知症の人と家族と地域の支え合いの会
「希望の灯り」代表

当事者は、認知症になったことでやりたかったことを諦めてしまうことが多く、家族や周囲も「何かあったら」と心配するあまり行動を制限してしまいがちです。
講座では、当事者の一言から、多岐にわたる人々が夢の実現に向けて共感し、そして楽しく連携して、サーフィンを楽しむことができました。



第21回東海北陸作業療法学会 🔍 検索



- 学会長 / 田中一彦 (松阪中央総合病院)
- 主催 / 一般社団法人三重県作業療法士会
- 事務局 / 小山田記念温泉病院リハビリテーションセンター内 学会事務局
- 公開講座問い合わせメールアドレス / kujira@mecha.ne.jp



Q 作業療法士って何する人なん？

A 作業療法はこころとからだのリハビリテーション。
食べることやお風呂、毎日の仕事やしゅみなど
何気なく行っていることが難しくなったとき、
こころやからだの働きを回復したり、
自分らしさを取り戻すお手伝いをする仕事です。



三重県作業療法士会
PRキャラクター
「リハイエロー」
東海北陸作業療法学会特別Ver



日本作業療法士会
PRキャラクター
「オーティくん」

Q 認知症にも、作業療法って効果あるんやろか？

A 運動を行って、体力を保つ以外にも作業療法は活躍します。
我々作業療法士は、病状や症状だけでなく、その人の生活をいかに理解するかに時間を使いま
す。どのように生き、どのような暮らしや趣味、環境にあるのかを見ているのです。
そうして得たきっかけを元に、その人が持っている「できること」に注目して、
能力を引き出すことを大切にします。認知症当事者の意欲や能力を引き出
すことは、脳に良い刺激を与えるだけでなく、『介助する・される』の関係を
崩し、周囲の認識を変えることに繋がります。
当事者に関わるだけでなく、周囲の環境・家族・地域へと広がり、当事者
にとって更に過ごしやすい環境を作る、絆をつなげ続けるお手伝いも、私た
ちの務めだと考えています。



今回の講演について

2018年、三重県伊勢志摩・国府白浜海岸で総勢130名参加のサーフィンイベントが行われ、恒例行事になりました。

このイベントの発端は、認知症当事者の発した「もう一度、サーフィンがしたい」という一言でした。

最初は小さな流れでしたが、家族・関係団体・市役所へと広がり、認知症とは関連の無い団体が巻き込まれていく頃には、「助けよう」、「介助しなきゃ」という関係から解放されたイベントになっていました。

このイベントこそ、我々作業療法士が得意とする『その人が持っている能力を活かし、地域と交流する』というイベントでした。

発端となったのは、当事者の一言でしたが、この一言を引き出す環境づくりこそ難しい所です。講師の団体、希望の灯りには、そういう下地が形成されており、その下地作りについては、家族や認知症関連団体にとって有益な情報として、ご紹介できると思います。

当事者には、認知症であろうと夢を諦めず、楽しみを分かち合うことが仲間がいることをお伝えします。家族には、ともに楽しむまで至った経緯から、認知症と生きるヒントを掴んで頂くことができるでしょう。

作業療法士を含む関係者にとっては、我々が目標とすべき『認知症当事者と、家族・周囲の人々との絆をつなげ続ける』ためのヒントを知ることができると思っています。

